

介護老人保健施設オアシス21

小島 佳祐(通所リハビリテーション 主任 / 作業療法士)

功 績 冬季の外出控えによる利用者減少という地域課題に対し、作業療法士の専門性を活かして「芸術祭」「歩こう北海道」「皆勤賞キャンペーン」の多角的なプログラムを主導。多職種連携のもと、利用者の潜在的な特技や運動意欲を引き出すことで、心身機能の維持・改善とQOL向上を実現。その結果、例年減少傾向にある冬季の利用率を前年比130%増へと転じさせるなど、リハビリテーションの質の向上と施設運営の活性化に大きく寄与した功績。

推薦者氏名 オアシス21 リハビリテーション科長 佐藤真由美

推薦理由 本実践は、利用者の「やりがい」を尊重し、尊厳ある人生を支えるという作業療法の本質を具現化したものである。

単なる行事に留まらず、多職種を巻き込みながら「通所すること自体の価値」を再定義することで、ご利用者には目標と活気を、スタッフはご利用者の今まで歩んできた道などをより知るきっかけとなり、また地域特性を克服し、施設全体の活性化と組織目標の達成を牽引した功績は極めて大きく、理事長賞として相応しいものと考え推薦する。

内 容

冬季の活動量低下を防ぐため、多職種連携による以下の3施策を展開した。
前年同月比130%増（12月～3月平均50名程度 昨年40名程度）

・芸術祭（12月～2月）

ぬりえコンテスト・書道展・じまん展を連続開催しました。ぬりえコンテストや書道展では、日頃の成果を披露するだけでなく、普段は創作活動を行わないご利用者も作品を提出され、ご利用者の新たな一面を引き出す機会となった。「じまん展」では、過去のじまんできる作品や賞状等を持ってきていただき、廊下に掲示した。失語症等の障害を持つご利用者が自ら思い出の品を持参し、笑顔でエピソードを語るなど、主体的な社会参加の場を創出した。また、「オアシス大賞」をはじめとする各種賞を設け、表彰式を実施したことで、多くのご利用者の笑顔を引き出すことができた。

・「みんなで歩こう北海道」

施設廊下での歩行を北海道一周（42,000周）に見立てて可視化。日々の周回数を記録。リハビリ時間外の歩行機会を創出し、月40km歩破する利用者が出るなど自発的な活動量を大幅に増加させた。

・皆勤賞キャンペーン

継続利用の動機付けを強化。欠席時の振替利用を促進し、健康管理の習慣化と安定した稼働（利用数）安定を両立させた。

上記3施策を展開し、例年減少傾向にある冬季の利用率を前年比増へと転じさせるなど、リハビリテーションの質の向上と施設運営の活性化に大きく寄与しました。